

## 基礎看護過程実習

責任者・コーディネーター	共通基盤看護学講座 菖蒲澤 幸子 教授		
担当講座・学科(分野)	共通基盤看護学講座、地域包括ケア講座、成育看護学講座		
対象学年	2	区分・時間数	実習 75 時間
期 間	後期		
単 位 数	2 単位		

### ・学修方針（講義概要等）

受け持ち患者のニーズを理解し、日常生活援助等の看護技術を実践するとともに、基本的な看護過程の展開について学ぶ。そして、多様なニーズを持つケアの受け手に対して適切なケアを提供するための基礎的能力を身に付ける。

### ・教育成果（アウトカム）

患者を一人受け持ち、教員や実習指導者の助言を受け、その患者の看護過程を展開することができる。また、指導を受けながら、受け持ち患者への援助を実践することができる。さらに、患者のニーズに応える援助とはどういうことなのかを考え、それらをまとめ表現することができる。

#### 【学位授与方針と当該授業科目との関連】

ディプロマポリシー：1, 2, 3, 4, 5, 7

### ・到達目標（SBO）

1. 看護の目的をもって対象者に関心を寄せ、言語表現・非言語表現を用いた対象との相互作用を通して関係を形成することができる。
2. 対象者の状況に応じて看護に必要な情報を収集でき、その情報を整理してアセスメントし、全体像を描くことができる。
3. 描いた全体像から対象者のニーズを見出し、優先順位を決定することができる。
4. アセスメントに基づく看護計画の立案と看護実践の方法を見出し、実践することができる。
5. 看護過程を振り返り、評価することができる。
6. 振り返りを通して、自らの看護の特徴を理解し、学修課題の明確化と実践の修正ができる。

・ 授業日程  
【実習】

日程	講座(学科) 担当教員	授業内容/到達目標
<p>A グループ 1 週目 8/21(月)～8/25(金)</p> <p>2 週目 8/28(月)～9/1(金)</p> <p>B グループ 1 週目 9/4(月)～9/8(金)</p> <p>2 週目 9/11(月)～9/22(金)</p>	<p>共通基盤看護学講座 菖蒲澤 幸子 教授 柏木 ゆきえ 特任准教授 小林 由美子 講師</p> <p>小坂 未来 講師 武田 邦子 講師 伊藤 奈央 講師</p> <p>地域包括ケア講座 館向 真紀 特任講師 菊池 佑弥 助教</p> <p>成育看護学講座 伊東 佐由美 講師</p>	<p>(授業内容)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーションを受ける。</li> <li>2. 原則として1名の学生が1名の患者を受け持ち、看護過程を展開しながら看護を実践する。</li> <li>3. 実習中の看護実践や見学をしていく中で、看護実践の根拠や看護師の思考について学ぶ。</li> <li>4. 実習報告会を通して、実施した看護を振り返ることができる。</li> </ol> <p>(到達目標)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護の目的をもって対象者に関心を寄せ、言語表現・非言語表現を用いた対象との相互作用を通して関係を形成することができる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的・積極的に対象者に関わり、対象者の表情や様子から思いを察することができる。</li> <li>・基本的なコミュニケーションスキルを用いて、対象者に合わせたコミュニケーション（目線の高さ、声の大きさ、話す速さなど）を行うことができる。</li> </ul> </li> <li>2. 対象者の状況に応じて看護に必要な情報を収集でき、その情報を整理してアセスメントし、全体像を描くことができる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・必要な情報収集がされ、情報の枠組み（項目）ごとに整理できる。</li> <li>・情報を適正に解釈・分析し、その上で看護の方向性を考えることができ、個別性を十分に考慮できる。</li> <li>・アセスメントに基づく図式化ができ、病態とそれにより生じる生活や対象者の思いなどをつなげて、個別性のみえる記載ができる。</li> </ul> </li> <li>3. 描いた全体像から対象者のニーズを見出し、優先順位を決定することができる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・アセスメントを統合して看護上の問題を抽出し、優先順位を決定することができる。</li> </ul> </li> <li>4. アセスメントに基づく看護計画の立案と看護実践の方法を見出し、実践することができる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・対象者を視点とした、評価可能な目標を設定し、評価日の設定ができる。</li> <li>・対象者の個別性を十分に考慮した、具体的で実践可能な看護計画を明確に記載できる。</li> <li>・知識・技術を用いて対象者に合わせた方法に変化させながら実践でき、対象者の反応をふまえて、実践を振り返ることができる。</li> </ul> </li> <li>5. 看護過程を振り返り、評価することができる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・評価に必要な情報が整理され、妥当な評価ができ、評価に基づいた計画の修正ができる。</li> </ul> </li> </ol>

		<p>6. 振り返りを通して、自らの看護の特徴を理解し、学修課題の明確化と実践の修正ができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自らの課題を明らかにし、重要性・必要性に応じて改善策を考え、学修することができる。</li> <li>・実習報告会において、メンバーの意見を聴きながら、実施した看護を振り返ることができる。</li> </ul> <p>※詳細は実習要項に記載する。</p>
--	--	---

・教科書・参考書等

教：教科書      参：参考書      推：推薦図書

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	ナーシング・グラフィカ基礎看護学① 看護学概論 第7版	志自岐康子, 松尾ミヨ子, 習田明裕 編集	メディカ出版	2022
教	ナーシング・グラフィカ基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ	松尾ミヨ子, 城生弘美, 習田明裕 金壽子 編集	メディカ出版	2022
教	看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント	深井喜代子 編集	メディックメディア	2019
教	アセスメント・看護計画がわかる症状別看護過程第2版	小田正枝 編集	照林社	2021
教	今日の治療薬 2023 解説と便覧	浦部晶夫、他 編集	南江堂	2023

・成績評価方法

基礎看護過程実習評価表（100％）に基づき評価する。（レポート評価 10％を含む）  
 ※評価表は実習要項に記載。

・特記事項・その他

<p><b>【事前事後学修の具体的内容及び時間】</b>        「看護過程」「看護過程演習」の授業内容を復習する。        実習中は、受け持ち患者の看護過程展開の記録を課す。記録を整理してわからなかったこと、疑問に思ったことは、調べたり、確認したりしてそのままにしないこと。        看護技術ならびに日常生活援助を実施する場合には事前に学修して確実な技術を提供できるようにすること。これらの事前学修時間は最低 90 分を要する。        ※記録物の詳細は実習要項に記載する</p> <p><b>【授業における試験やレポート等の課題に対するフィードバック】</b>        毎日の実習記録と看護過程の記録については、適宜コメントを伝える。        カンファレンスに参加し、助言を伝える。        実習終了時には、実習評価表に基づいた個別面談を行い、学生とともに実習全体をふりかえる。</p>
--

【保健師助産師看護師学校養成所指定規則教育内容】  
看護師（別表3）：専門分野Ⅰ 基礎看護学 臨地実習

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
機器・器具は、実習病院の備品を使用する。			